

◇ 卷 頭 言 ◇

- ◎ 建國茲に第九年を迎へ國礎愈々固き我が滿洲國が國防の第一線として將又資源の供給地として圓ブロッグ圏内に於ける位置の益々重きを加ふる時現地に於て困苦と缺乏に堪へ危険に直面しつゝ働く土木建設の戰士の責務と勞苦とは戰線に於ける將士の夫れにも敢て劣らざるものと思はれる
- ◎ 嘗ての暗黒地帶東邊道、匪賊の巢窟として殆ど足踏み不可能なりし東邊道は突如地下資源の寶庫として非常時の脚光を浴び颯爽として産業界に登場し來つた。暗黒の東邊道は今や一轉して光明の東邊道となり鐵と石炭に關する限り持たざる國は一躍して持てる國に轉向せんとしつゝある。
- 何が彼をしてさうさせたか。他なし。道路網の完備である。之が爲匪賊は其の影をひそめ資源の調査、作業を安んじて爲し得るに至りたるに外ならない。往時匪賊の巢窟たりし東邊道の惡路を警備物々しく走りしは既に全く過去の夢となり、今日坦々たる路面を數十軒の速力にて疾走す時、隨所の山々に建てられたる殉職者の碑を拜し轉た今昔の感に堪へず地下に眠る英靈に對し感謝の念の禁ずる能はざるものがある。
- ◎ 今や皇紀二六〇〇年我等は八紘一宇の大理想に向て邁進すべき時建設の戰士の責務の如何に重大なるかを痛感し第一線に奮闘せらるゝ諸賢の勞苦に對し深甚なる謝意を表するものである。